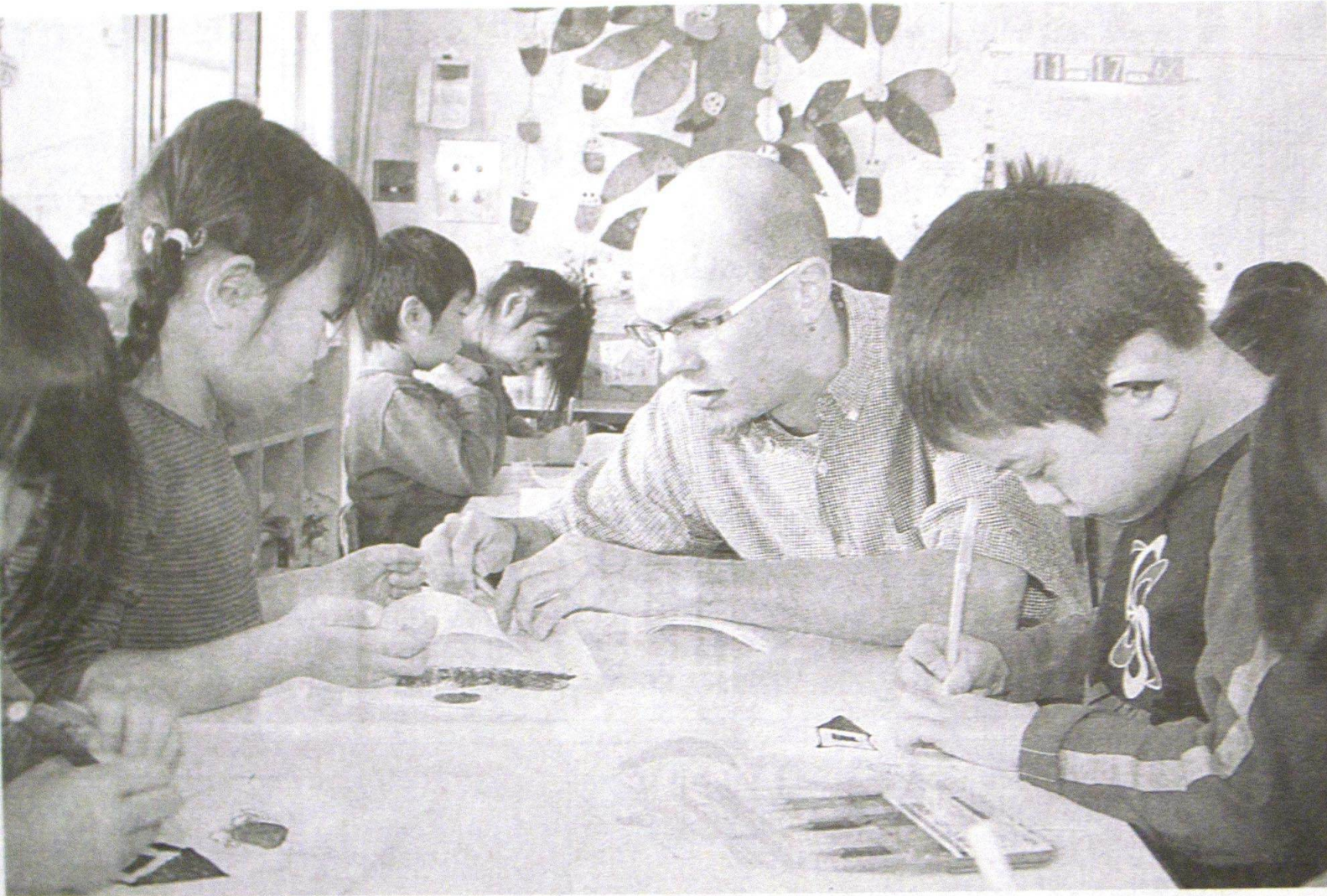


子どもと描く 夕焼けハウス

小豆島で活動中 ジェームズさん夫妻



小豆島町蒲生の小豆島子どもセンター(後藤巧センター)で、小豆島芸術家村で9月から制作活動を行っている米国人、ジェームズ・ジャックさん(32)と妻美穂子さん(28)が12月に開く作品展の一部に使う絵を子どもたちと描くワークショップを開いた。ジャックさんは、小豆島の土や石、岩石などから作った顔料を使って絵を描いており、三都半島の神浦地区で使われていなかった家を改装して「夕焼けハウス」を制作中。ハウスは作品展会場の一部となる予定で、ハウスの土壁に貼る絵やメッセージを作ろうと計画した。ワークショップには、5歳

作品展 来月10~18日

夕焼けなどの絵を描く子どもたちとジャックさん(右から2人目)
—小豆島町蒲生の小豆島子どもセンターで

児25人が参加。最初に「人間の髪は丸い形」と考えるジャックさんが丸いものの絵を描き、「丸いもので思い浮かぶのは何ですか」と質問すると、子どもたちからは「リンゴ」や「月」などの答えが返ってきた。

続いて、子どもたちはペンを使い、2枚の紙に住んでみたい家や青い地球、海辺の風景、父親の乗るフェリーや島などを描いた。1枚は自宅に持ち帰る絵とし、夕焼けハウスに貼る絵については一人ずつ発表した。

川西アモルさん(5)は「赤い夕焼けを描いた。とても楽しかった。三都半島にハウスを見に行きたい」と話していた。

ジャックさんは「子どもたちから元気が伝わってきて新鮮なパワーをもらった。新たなアイデアが浮かびそうだ。ぜひ見に来てほしい」と話した。

作品展は12月10、18日に同町蒲野の三都体育館など3カ所である。それぞれの思い出を直接見るのではなく隠すことで想像力が高まるという、ジャックさんの考えから、最終日の18日には寄せられた絵やメッセージを板で覆い完成する。

【秋長律子】